

幼児期の子どもの育ち

—家庭、地域、幼保、幼児教育産業—

○山瀬 範子（四国大学短期大学部）

片桐 真弓（尚絅大学短期大学部）

住田 正樹（放送大学）

I. 問題の所在

本発表の目的は、幼児期の子どもの育ちの場である、家庭、地域、幼稚園・保育所、幼児教育産業の中で、子どもたちにどのような教育が行われているのか、子どもの生活や育ちの実態を明らかにすることにある。

幼児期の子どもの育ちは、教育基本法に示されるように生涯にわたる発達の基礎となるものである。マスコミ等でも「子どもの育ち」については頻繁に論じられ、親の多様なニーズに細やかに対応した育児雑誌も出版されるなど、乳幼児期の育ちは社会的関心を広く得ている。そのような中で、子どもの教育に強い関心を寄せ、熱心に取り組む親がいる一方で、親の養育力の低下が問題視されている。

従って、本発表では、今どきの親たちがどのような期待を持って、家庭や地域、幼稚園・保育所、幼児教育産業といった子どもの育ちの場を利用し、子どもたちを育てているのかを検討していく。

II. 調査の方法

本発表において取り扱うデータは、幼稚園・保育所を利用する3～5歳児のいる家庭を対象にした質問紙調査で得られたものである。2010年11月から2011年3月にかけて、熊本県および徳島県内の幼稚園・保育所の協力を得て調査を実施した。調査方法は、園のクラス担任から、園児に調査票を配布して、保護者に記入してもらう留置法を採用した。718家庭への配布に対し有効回収票数は567票であり、回収率は79.0%である。

III. 調査結果の分析

(1) 調査対象者の概要

保護者の年齢は30歳代が最も多く、また、核家族世帯が大半を占めている。ほとんどの家庭で保護者が家を空けるときに子どもの世話をしてくれる人がおり、その人は配偶者や祖父母であった。家の周囲の環境については、大半の者が近所に公園や運動場があるが、山や川などの自然の遊び場は比較的少ないと回答している。

将来の子どもへの期待は、「思いやる心を持つ

人」「規則を守り、人に迷惑をかけない公共心を持つ人」「忍耐強さや粘り強さを持つ人」といった人間関係に関する力を重視する傾向が見られた。一方、「独創性やはっきりとした個性を持つ人」「公正さや正義感を持つ人」といった特質はあまり重視されていなかった。子どもの学歴については大半の保護者が大学まで卒業することを期待していた。

(2) 家庭・地域における育ち

家庭や地域での遊びの状況をみると、運動遊びのような体を動かす遊びの頻度は低く、TV視聴や絵本の読み聞かせのような静的な遊びの頻度が高かった。遊び相手については、母親やきょうだいと遊ぶことが多く、それに比べると父親や友達と遊ぶことは少ない。遊び場所も自宅や自宅の庭が中心で、家庭内で母親やきょうだいといった家族を中心に遊んでいる様子が見られた。

(3) 幼稚園・保育所における育ち

幼稚園や保育所に対しては、社会性や人間関係に関すること（「友達と仲良くする」「ルールや決まりを守る」など）の保育内容が重視されており、芸術能力や知育に関してはあまり重視されていなかった。

(4) 幼児教育産業の利用状況

現在、利用している習い事・お稽古としては、①スイミングスクール、②学習塾、③通信教育、④音楽教室、⑤体操・バレエ、⑥英会話の順で、利用する子どもの人数が多かった。また、習い事やお稽古ごとを利用させるとしたらという設問に対しては、①スイミングスクール、②音楽教室、③習字、④英会話、⑤体操・バレエ、⑥サッカー・野球、⑦そろばんが挙げられた。実際に利用している習い事・お稽古としては、スポーツ系、学習系が重視されているのに対し、利用したい習い事・お稽古としては、スポーツ系、芸術系が挙げられていた。

IV. まとめ

*詳しい資料は当日に配布いたします。